

カルシユの足跡を追って

◇21◇

若松 秀俊

松江高等学校

(下)

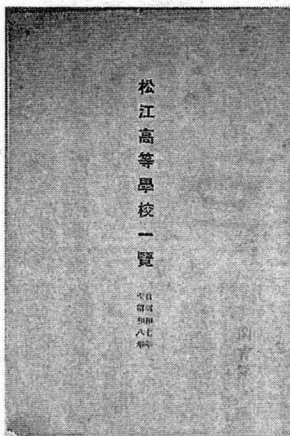
明治以来、文部省の方針に沿って、大学では「お雇い外国人」による専門教育を行ってきた。この時期には専門教育に純に見て、カルシユは松

原の三倍強の報酬を得ていたようだ。旧制松江高校に籍を置いた外国人教師について

教授陣に多彩な外国人も

とにか、カルシユには長屋からの情報以外に、彼からの情報も入っていたに違いない。

ところが、彼らと日本人の給料には歴然とした違いがあった。大正十四年(一九二五)年十月にリッツ・カルシユが月額俸給四百二十五円でドイツ語教師として採用されたが、昭和二(一九二七)年四月、東京帝大出身のノイド・ミアース(英国)・文学士七、エチ・エスは年俸千六百円であった。税金を考慮せずに単にイティカー、エチ・エス・ギルソン(英国・文学士七)、ハロルド・ジョンソン(米国)など、当時の生徒が証言している。多くは臨時のシユは無職、ゲルハルト・ツセルとウイティカーはケンブリッジ大学卒業でドイツ人で、着任時、ヴィルヘルム・ブラーゲ十号所有者であった。な



職名	氏名	国籍	備考
校長	佐々木 守	日本	
副校長	山本 昌	日本	
主任教諭	高橋 貞吉	日本	
教諭	松本 清	日本	
英語科	ノイド・ミアース	英国	
英語科	エチ・エス	英国	
英語科	イティカー	英国	
英語科	ギルソン	英国	
英語科	ハロルド・ジョンソン	米国	
英語科	ツセル	ドイツ	
英語科	ウイティカー	ドイツ	
英語科	ヴィルヘルム・ブラーゲ	ドイツ	十号所有者
英語科

昭和7年度の松江高等学校一覽

お、カルシユは昭和十五年(一九四〇)年から終戦まで駐日ドイツ大使館付き副武官として奉職した。ところで、あまり知られていないが、ブラーゲは日本人に著作権の概念を認識させようと努力した、日本におけるいわば著作権の父と呼ばれる人である。シユヴァルベは松江高校退任後、戦後の駐日ドイツ大使館報道官として奉職し、日独親善に尽くした。ちなみに、このシユヴァルベの娘が東京医科歯科大学で現在ドイツ語の教師を務めているエミ・シンチンゲルであり、四半世紀前からの筆者の友人でもある。

「ドクター・シユヴァルベ」とあるのは、当時周知の人物がそう呼んでいたことを暗に示すものであ

島根大学附属図書館蔵の『松江高等学校一覽』

文中敬称略